



皆様には、平素からお世話になり、大変ありがとうございます。1月1日の「令和6年能登半島地震」で始まった昨年でしたが、9月には、同じ能登半島を豪雨が襲い、自然の厳しさ、恐ろしさを見せつけられました。また、昨年は2年続けての記録的な猛暑となりました。

こうした中、当センターは、気象サービスの発展と品質の確保、気象分野での産学官連携の促進などに寄与する各種事業を展開しています。昨年一年間、皆様方のご指導、ご支援、ご協力により、これらの事業を円滑、的確に進めることができました。深く感謝いたします。

気象予報士試験では、近年は毎年約 8,000 名の受験、約 400 名の合格で推移しており、わが国における質の高い気象予報サービスにつながっています。昨年も概ね例年通りに実施することができました。今年も 1 月に行われる令和 6 年度第 2 回の試験も含めて、引き続き、適正な実施に努めます。

振興事業では、昨年、気象予報士の皆さんなどにご参加いただいたオンライン会議システムによる各種講習会を、今年も実施していきます。また、昨年も猛暑となりましたが、当センターでは熱中症関係の受託事業を行っており、昨年は、環境省による「熱中症特別警戒アラート」の新たな導入にも寄与したところです。今年も引き続き、関係機関と協力して熱中症対策に貢献してまいります。

研究推進業務として、当センターは、文部科学省が推進する「気候変動予測先端研究プログラム」の一翼を担っています。より詳細で正確な日本の温暖化予測を行うための研究の一環として、昨年の 猛暑や豪雨などに地球温暖化が与えた影響の度合いを定量的に示すなどの成果を世の中に示しています。今年も引き続き、良い研究成果をあげられるよう努めてまいります。

(理事長)